

# 日本多読学会 年会・研究集会／豊田高専教育 GP プロジェクト中間報告会 総合プログラム

日時	日本多読学会 年会・研究集会	豊田高専教育 GP プロジェクト中間報告会
8月21日(金)		<p>13:00-13:15 あいさつ (末松 良一校長、図書館 1F 多目的ホール)      13:15-14:00 プロジェクトの背景、ねらいと手法 (西澤 一)      高専生の英語運用能力向上に関する 10 年間の教育実践と本プロジェクトの位置づけ。      14:00-15:30 多読モデル授業 (図書館 1F セミナー室)      受講生が自律的に英文図書を読む多読授業を再現。授業法、準備、環境整備も見学可。      15:40-16:10 プロジェクト 1 年目の状況報告 (深田 桃代、長岡 美晴)      多読・多聴授業を全学に展開した H20 年度の取組。      16:10-17:00 図書推薦システムの紹介 (吉岡 貴芳)      授業外の自律的英文読書を支援する図書推薦システムを紹介、操作の体験。</p>
8月22日(土)	<p><b>Sessions in English</b> (Auditorium, Library, Ground floor)</p> <p>9:00 - 9:50: Registration      9:50 - 9:55: Opening Notes      10:00-12:40: Extensive Reading at Various Educational Institutions in Japan      1) H. Nishizawa: How ER Changed Reluctant Engineering Students into Confident Readers      2) A. Furukawa: Extensive Reading from the First Day of English Lesson      3) K. Yasufuku: Extensive Reading for Middle School Students      4) A. Takase: The Effects of SSS and SSR on Any Level of University Students      5) M. Kanda: Long-Term Effects of Extensive Reading      6) K. Uozumi, A. Takase: What Motivates Teachers to Implement ER in Class</p> <p>12:40-14:40: Tour of College Library / Lunch</p> <p><b>Book Exhibition</b> (9:00-14:40: Auditorium, Library, Ground floor)      Cambridge University Press, Cengage Learning, Pearson Longman,      Macmillan Language House, Oxford University Press, R.I.C. Publication, Scholastic,      SEG Bookshop, ABAX</p>	
	<p><b>招待講演</b> (Plenaries, 図書館 1F 多目的ホール, Auditorium)</p> <p>14:40-15:40: How Extensive Reading Fits the Curriculum  <b>Rob Waring</b> (Notre Dame Seishin University) Foundations Reading Library (FRL) シリーズ著者</p> <p>15:40-16:40: Second Language Acquisition Research and Extensive Reading  <b>Yasuhiro Shirai</b> (University of Pittsburgh) 「外国語学習の科学—第二言語習得論とは何かー」(岩波新書) 著者</p>	
	<p><b>懇親会</b> (Buffet Reception)</p> <p>18:00-20:00 場所 ホテル トヨタキャッスル (参加費: 6 千円、事前申込)</p>	
8月23日(日)	<p>8:10-9:10 多読学会総会 (図書館 1F セミナー室)</p> <p><b>日本語セッション</b> (図書館 1F 多目的ホール)</p> <p>9:10-10:10 多読図書・音源の紹介 古川 昭夫 (SEG)      10:10-10:30 公立中学校での多読授業 三村 ゆう子 (広島市立己斐中学校)      10:30-10:50 社会人向けの多読指導実践 川上 由紀 (ピクシー英語教室)      10:50-11:10 サテライト施設での多読指導 高橋 愛 (徳山高専)      11:10-11:30 学会貸出図書と大学での試用例 黒 道子 (順天堂大学)      11:30-12:00 各出版社からの多読図書のお勧め 参加出版社</p> <p>12:00-13:30 昼食、12:00-15:40 多読用図書展示 (図書館 1F セミナー室)</p> <p>13:30-15:00 分科会      (第一会場) 高専・大学での多読 神田 みなみ (平成国際大学) &amp; 西澤 一      (第二会場) 中学・高校・塾での多読 安福 勝人 (武庫川女子大付属中高)      &amp; 古川 昭夫 (SEG)      (第三会場) 児童英語での多読 宮下 いづみ (EET)</p> <p>15:15-16:00 まとめの討議 (図書館 1F セミナー室) 西澤 一</p>	

申込先 豊田高専 多読 GP 事務局

TEL (0565) 36-5856 (8/14 を除く、月、火、金 9:30-16:00), FAX (0565) 36-5845

e-mail [tadokugp@toyota-ct.ac.jp](mailto:tadokugp@toyota-ct.ac.jp)

## 豊田高専教育GPプロジェクト中間報告会 「多読・多聴授業による英語教育改善の全学展開」

### 1. はじめに

豊田高専の取組：「多読・多聴授業による英語教育改善の全学展開」は、H20年度教育GP（質の高い大学教育推進プログラム）に選定された。この取組は、設立から45年経過後も高専生の弱点である英語運用能力を、新しい教育手法である多読・多聴授業により顕著に改善する取組である。この取組では、本校電気・電子システム工学科（以下、E科と略称）で先行導入し同学科学生の英語運用能力改善に効果のあった多読授業をベースに、自律的な多聴活動を加えた多読・多聴授業を全学に展開し、本科1～3年の全学科共通科目とE科2～5年の各目で実施する。豊富な多読・多聴環境を整備し、地域の社会人とも連携して地域共学の雰囲気を作ることで、授業時間内外にやさしい英文を大量に読む・聴く、学生の自律的な学習姿勢を引き出し、本校学生の英語運用能力を、本科3年でTOEIC平均380点、E科卒業生で平均500点以上まで引き上げることを目的とする。本取組が成功すれば、知識獲得型の従来教育と発信型の新しい試みとのギャップを埋めることができ、英語の苦手な工学系学生の英語運用能力改善のモデルとなると期待される。

本資料では、2008年度までに、先行して5年間継続の多読授業を実践しているE科の状況を概観し、その後、多読授業導入の経緯、100万語多読の特徴を述べ、よく聞かれる質問に対する回答を試みる。

### 2. 多読授業（5年間）継続学生の状況

豊田高専E科では2002年に本科5年で始めた英語多読授業を2004年には6学年に拡大した。この結果、2008年度の専攻科学生18人は、通年1単位の英語多読授業を2004～2008年度の5年間（一部学生は4年間）受講している。（22.5時間×5年の）授業時間内に読むことのできる最低限の読書量は毎分80語で計算すると54万語になるが、15人（83%）がこれ以上を、また10人（56%）が100万語以上を読んできている（図1）。学生は、自律的な英文読書習慣を身につけており（日本語に翻訳することなく読むことのできる英文のレベルを把握し、適切な英文図書を選択、授業時間内外に読むことができている）、また、定期試験（初見英文の読解試験）に合格し、外部試験（TOEIC）得点も上昇している。

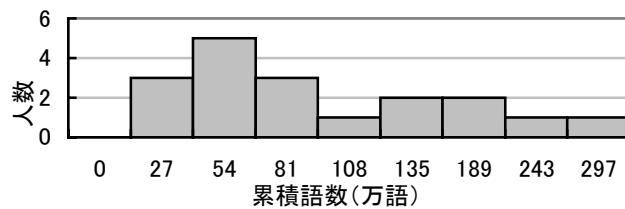


図1 受講生の読書量分布（中央値：101万語）

表1 専攻科学生の多読授業継続年数の推移

年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008
1年	(1年経験)		2年目			
2年	多読前		2年目 3年目	3年目	4年目	5年目

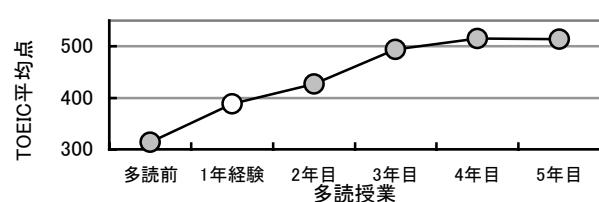


図2 多読授業継続年数と TOEIC 平均点の関係

E科専攻科学生のTOEIC平均点（年間自己ベストの平均、英語圏への留学経験者を除く）を多読授業経験年数（表1）でまとめた（図2）。多読授業開始以前の2003年度（専攻科2年生）に対し、2年目の学生は160点、4年目以降では200点上昇し、自律的な英語学習が可能（と、我々が考えている）TOEIC450点水準をクリアしている。また、多読授業を複数年継続することで、TOEIC得点で測定できる英語運用能力は、安定して向上できていることも分かる。

本校における、多読授業の実施状況を振り返り、実践上のポイントを明らかにするために、詳しい記録の残っている学生6名の読書記録を調査した。過去2年間、4ヶ月毎の読書量（累積語数）とその時期に読んでいた平均英文レベル（YL<sup>\*1</sup>）の関係を図3に示す。累積語数と平均英文レベルの関係は、学生毎に異なるが、大まかにみると、累積50万語でYL2.0、累積100万語ではYL3.0辺りの英文を中心に読んでいることがわかる。図3には無いが、学生は、多読授業期間の前半（1～3年目）には、更にやさしい（YL0.0～2.5の）レベルの英文を中心に読んでいることも付記しておく。

英文レベル：YL2.0（表2）とは、大部分を基本語彙400～600語で書かれた英文、おおよそ高校1年の「英語講読」の副読本として使われるやさしい英文レベルである。また、Nativeの小学校1年向け読本程度とも言え

る。他方、累積語数100万語の読書には毎分80語で208時間要する。すなわち、本校多読授業では、学生が極めてやさしい英文図書を5年かけて、延々と読み続けていることがわかる。

学生の読書履歴は、「すらすら読めるやさしい英文を読むように」という読書指導、TOEICによる外部評価と、未読英文を用いた定期試験の影響を受けている。例えば、H20年度、専攻科2年の科目達成度目標の一つは、「基本語1000語水準（YL3.2）の英文を、（毎分100語以上で）連続して1時間以上読み続けることができ、概要を把握することができる」に設定した。定期試験では、YL3.2、8,000語の未読英文を80分以内に読み、その概要、やや詳しい内容記述を求めている。

多読による英語運用能力の向上は、英文を直接（日本語に翻訳することなく）理解することにより、英語による情報処理速度が増し、処理負担が減る（意識を集中しなくても処理できるようになる）ため<sup>\*2</sup>と考えている。その結果、学習者が「やさしい英文ならば読める」と実感するために30～50万語、TOEIC得点で確認するために50～100万語の読書量が必要と、

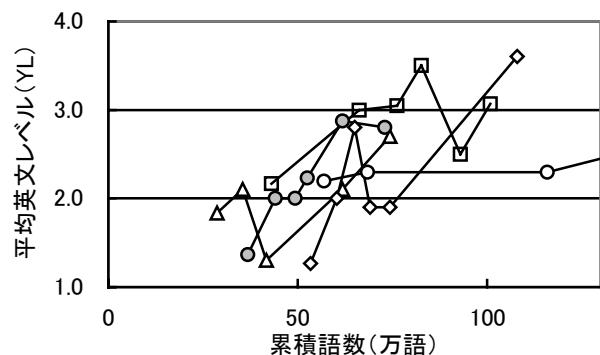


図3 学生の読書履歴（累積語数と平均英文レベル）

表2 多読用図書の英文レベル<sup>\*1</sup>

YL	基本語彙	英文の長さ	シリーズ例
1.0	250～300	700～2,000	FRL5, PGR1
2.0	400～600	3,000～7,000	OBW1, PGR2
3.0	1,000	7,600～13,000	MMR3, OBW3, PGR3

\*1 YL（読みやすさレベル）：1冊に英語が1語も書かれていない絵本：YL0.0から、難解な一般小説：YL9.9まで。多読1年目の標準的な学生（豊田高専）は、YL1.0以下のやさしい本を中心に、10万語以上の英文を読みます。YL3.0以下の本を中心に100万語読むことが、理想的です。

\*2 「英文多読による工学系学生の英語運用能力改善」西澤、吉岡、伊藤、電気学会論文誌A、126-7、pp556-562（2006）

本校における実践から見積もっている。大部分の受講生が無理なくこの量を読むためには、以下の 2 点が不可欠である。

### 授業時間内に、コアとなる読書時間を確保する

科目の課外として多読活動を課すだけで自律的継続的読書を行う学生は、（少なくとも、本校では）極めて少数である。“忙しい”学生に英語多読を継続する習慣を持たせるためには、正規科目として「多読授業」を設定し、学生が定期的に読む時間を確保することが不可欠である。E 科では、45 分 × 30 週 × 5 年間 = 113 時間の授業時間を確保した結果、初めて、過半数の学生が累積読書量 100 万語を達成している。

### やさしい英文図書を豊富に揃える

YL3.0 以下のやさしい英文図書を豊富に揃えることも重要である。我々の実践では、学生は（5 年間継続の多読授業の）後半 2 年間に、YL1.5～3.5 の英文図書を中心に読んでいるが、前半 3 年間に読まれた英文レベルは YL0.0～2.5 である。特に、授業初年度に YL1.0 未満の英文を読むことは、日本語に翻訳しながら読む従来の読み方から、英文から直接意味をくみ取る多読の読み方に転換するためにも、極めて重要である。

## 3 豊田高専における英語多読授業導入の経緯

豊田高専では、電気・電子システム工学科（以下、E 科と略称）が、2002 年度（H14）後期、本科 5 年生に英語多読授業を導入、2004 年度（H16）からは本科 2～5 年と専攻科 1、2 年の 6 年間で多読授業を行っている。さらに 2008 年度からは、本科 1 年の全学科共通科目で、多聴・多読授業を開始、2009 年度は本科 1、2 年に、2010 年度には本科 1～3 年まで拡張する。

2002 年夏、本校歴代卒業生へのアンケート調査では、創立以来のいずれの年代も、国際コミュニケーション／英語教育についての不満（卒業時に力不足）が突出して高く、40 年間、英語の苦手な卒業生を社会に送りだしていたことが確認された<sup>\*3</sup>（1：全く身に付かなかった～5：十分身に付いたの 5 段階評価で、2.0 未満の低評価）。また、2003 年度の TOEIC では、専攻科 2 年生の平均点が 326 点で、同年度高校 1 年並の低得点であった。本校には LL 教室、最新のマルチメディア教材（A 社）も完備し、本科 1 年には外国人講師による少人数英会話授業も配置しているが、これら従来の教育手法だけでは、状況を打破できなかつたのである。

これに先立つ 1994 年度から、E 科では、専門学科として英語教育を支援すべく、（専門科目の授業時間の一部を割いて）工業英単語小テストを、また、1997 年度からは校内ネットワークを用いた工業英単語個別学習システムを稼動させ、活用してきた<sup>\*4</sup>。しかし、その効果は工業系語彙習得に限定され、運用能力には転じないことが次第に明らかとなってきたため、その後は使用を縮小し、2007 年度以降は取りやめている。

また、2002 年度には、千田潤一氏の提唱する「音読・筆写」を、E 科低学年の課題演習として導入、ある程度の成果を得た（音読・筆写を 1 年間行った 2004 年の E 科 3 年は TOEIC

\*3 「卒業生アンケートによる豊田高専の教育評価」西澤他、高専教育 27 号 pp555-560 (2004)

\*4 「自習システムを用いた工業英単語教育」西澤、吉岡、斎藤、高専教育 23 号 pp243-248 (2000)

平均点が357点まで上昇)。しかしながら、同方法では、学習自体が楽しくなく、学生が効果を実感できなかった。強制力だけで学習を長期間継続させることは難しく(1年間が限界)<sup>\*5</sup>、これ以上の英語運用能力向上は難しいと判断した。2004年度以降は対象学年・実施期間を縮小し、多読への置換が妥当と判断した2006年度以降は取りやめている。

他方、2002年度後期に導入した英語多読では、A)早期から学生が効果を実感でき(「英語が読めて驚いた」との声)、B)学習自体を楽しめる学生が多く、従来は嫌っていた英語学習を好きになった学生も多く、C)授業時間外に自主的に学習する者も増加、図書館の利用度が上がった等、予想外の好反応も得たため<sup>\*6</sup>、2004年度に対象学年を増やした。2008年度に教育GPプロジェクトに採択され、更なる環境整備、雰囲気づくりに取り組んでいる。

本校における英語多読の教育実践については、2003~2008年度の高専教員教育研究集会でも報告してきた<sup>\*7</sup>が、新入生の英語に対する学苦手意識は強いものの、現場の裁量で教育手法を選択・工夫でき、長期間継続の指導も可能な高専では、とくに有望な手法だと実感している。最後に、E科の学年別TOEIC得点を、同年代の他教育機関の全国平均(IP)と比較し、図4に示す。多読授業(継続年数)3年目以上の学年は、同世代の大学生平均よりも高得点となっており、数単位の多読授業追加で、また、大学受験を経ずとも英語運用能力を顕著に改善できていることが分る。

### 豊田高専 電気・電子システム工学科(E科)学生の TOEIC平均点<sup>\*</sup>の推移

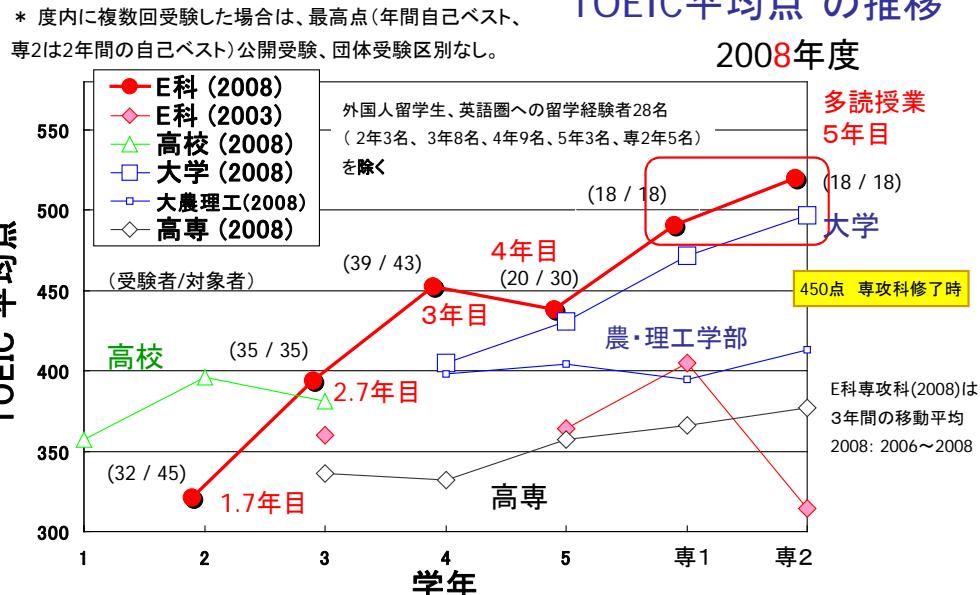


図4 同世代他教育機関全国平均との比較

\*5 「インプット重視の英語教育実践、その効果と限界」西澤、吉岡、杉浦、高専教育28号 pp523-528 (2005)

\*6 「理系クラスでの多読授業」吉岡、西澤、英語教育2月号 pp18-20 (2004)

\*7 「豊田高専における英語多読授業の成果と課題」西澤、吉岡、伊藤、深田、長岡、第7回多読学会ワークショップ (2008)

## 4 100万語多読の特徴

### 1) 多読三原則

酒井の提唱する100万語多読<sup>\*8</sup>では、三原則（辞書は引かない／わからないところは飛ばす／つまらなくなったらやめる）を設定している。これは（日本語での読書のように）英文から直接（日本語に翻訳せずに）意味を汲み取り、物語の世界に入り込む（ことで、英語使用の疑似体験をする）ためのポイントをまとめたもので、本校の多読指導でも守られている。

### 2) 100万語多読における読書量と英文のレベル

国内でも「多読」教育の実践例は少なくないが、読書量と英文のレベルの2点で、100万語多読と異なるようである。豊田高専の実践例から述べると、100万語多読の  
**読書量**による学習者の変化は、

- 10万語：（翻訳しない）多読の読み方に慣れる（ACEでクラス平均が変化）
- 30万語：やさしい英文なら読めると自覚（ACEで個人得点変化、TOEICでもクラス平均が変化）、
- 100万語：自律的に図書選択できる（TOEICで個人得点変化を保証できる）、
- 300万語：英語圏への留学経験（1年間）に匹敵する可能性あり、

であり、逆に、10万語程度で終わってしまうのでは、（学習者の感覚変化以上の）効果を得ることは難しいのではないか、と予想している。

**英文のレベル** 日本語に翻訳して理解するのではなく、英文から「すーと読んで、すーと分かる」ように読むためには、英文のレベルを極端にやさしくする必要があるとの100万語多読の主張も、少数派である。例えば、Day&Bamfordが、エジンバラ多読プロジェクト（EPER: Edinburgh Project on Extensive Reading）Dレベル、TOEIC300点水準の学生（多くの高専生のレベル）に適切としている英文のレベル<sup>\*9</sup>は、我々が、100万語を読んだ学生（TOEIC450点に達している）に推薦する英文レベルだった<sup>\*2</sup>。多読授業で学生が楽しめないとしたら、その最大要因は、英文レベルが高すぎることだと、と我々は考えている。豊田高専で利用する多読用図書の例については、別紙、表3を参照のこと。

### 3) 教員の役割

多読授業では教員の役割が大きく変わる<sup>\*10</sup>。担当教員は、授業開始前に教材となるやさしい英文図書を自ら読み、個々の学生に合わせた推薦図書を紹介できるよう豊富な教材知識を持つことが重要で、また、初期の教材（購入用予算）確保も重要な役割となる。

### 4) 多読用図書

豊田高専では、初年度600冊で1クラスの多読授業を始め、対象学年を拡大した2004年度には、図書館に約3,000冊のやさしい英文図書（YL0.0～3.0を中心に）を集めた。全学生の過半数が多読授業を受けていた現在では、約15,000冊の図書を図書館に所蔵している（2009年7月現在）。戦略的な予算支出、外部資金の調達等が必要だが、LL、CALL等に比べれば、初期投資額は少なく、始めやすいと言える。

\*8 「教室で読む英語100万語」酒井、神田、大修館書店

\*9 「Extensive Reading in the Second Language Classroom」 Day & Bamford、Cambridge University Press (1998)

\*10 「英文多読に関する一考察：英語教育のパラダイム・シフト」堀、竹田、高専教育28号 pp351-356 (2005)

## 5) 多読の導入状況

全国高専では、豊田、沖縄、東京、大分、函館、旭川、沼津、呉、新居浜、都城他の高専、および、豊橋技科大で多読指導が行われている。また、愛知県では、小牧、蒲郡、豊橋、愛知県、豊田、一宮、田原、知多、豊明、他の図書館が、多読用のやさしい英文図書を新たに導入し、市民に提供し始めている。

## 5 英語多読に関する Q&A

### Q1. 多読で英語運用能力が向上するしくみは？

A1. 多読では、日本語に翻訳せずに英文を**英語のまま理解する**能力が育つものと考えている。翻訳をしないと、内容理解に要する時間が短くなり、瞬時に反応できるので、リーディングだけでなくリスニングにも役立つ。これは、TOEIC、ACEで、リスニングとリーディング部門の得点が均等に伸びていることからも分かる。実際のコミュニケーションで必要とされ、TOEICでも重要となる反応速度を顕著に改善できることが、得点上昇に結びつくのであろう（TOEIC受験対策授業は、しなくとも上昇する）。

また、多読では、多くの学生が英文で書かれた物語の世界に入り込み、これを疑似体験する。これは、語彙と文法知識を用いて英文を分析する学習ではなく、（日本語の読書と同様の、やや気軽な）読書である。特に、物語自体を楽しめるようになると、楽しみや趣味としての活動が、運用能力向上につながり、自律的な読書が長期間継続しやすくなる。読書好きの小学生が、中学・高校の「国語」で成績がよくなるしくみと似ている。

### Q2. 「読めるが話せない」日本人には、読書より会話を重視すべきでは？

A2. 「読めるが話せない」は広く伝播している誤解である。この主張の「読める」とは時間をかけ日本語に翻訳して理解することにて、（日本語のように）「読める」ことではない。実際、多読経験のない大学院生は、本校多読授業2年目向けの英文（YL1.4<sup>\*1</sup>、表3の3段目）を初見では読めない<sup>\*11</sup>し、英語圏からの帰国者（1年間の留学後で日常会話はこなせる。TOEIC600点くらい）も、最初は小学校高学年向けの児童小説（例えば、Harry Potter や Darren Shan：表1の最下段）を読み通せない。少なくとも、日本人は「時間かけて翻訳はできるが、読めないし、話せない」と表現しなおすべきである。日本人は「読めないから、話せない」可能性さえある。

さらに、Native 講師による少人数の「英会話」授業では、学生が（日本語ではなく）英語で考える時間が、意外に短い懸念がある。日常生活で英語に触れない環境下での「英会話」授業は、特に「読めない」低学年生が英語で考えるのには適していない。多読で「読める」ようになった高学年生を対象にした方が、「英会話」も、より高い効果を期待できるであろう。

### Q3. 文法学習は不要か？

A3. アウトプット（特に書くこと）には、文法学習が有効である。ただし、文法学習は、豊富

\*11 シラバス設定水準の英文を毎分100語の読書速度で読みきれる制限時間内に読ませ。英文を回収後に、全10問の質問に日本語で答えさせる。質問は、あらすじを問うものから、細かい描写内容を問うものまで。試験勉強は不要だが（できない）、普段読んでいない学生が合格点を取るのは難しい。

な読書経験後の方が、解説内容を納得する学生が増え、より効果的であろう。多読により豊富な英語体験をさせた後ならば、英語による授業での文法解説も、現実味が増すのでは？

#### Q4. 英語多読を実践してみて効果は上がらなかったが？

A4. 読書量が不足していたか、英文レベルが高すぎなかつたかを確認しよう。

豊田高専の例では、多読の効果を ACE のクラス平均で確認するのに 10 万語、TOEIC のクラス平均で確認するのに 30 万語の読書量が必要でだった（60、100 万語で効果は更に顕著）。10 万語に満たないの平均読書量で効果を確認することは難しいと思う。

また、英文レベルについては、我々も 2002 年度（多読実践の初年度）、開始英文レベルが高すぎる失敗をしている。本科 5 年生に語彙水準 200 語の PGR0 (YL0.8、表 3 の 2 段目) を与えて、平均的な学生から「難しい」と指摘され、急遽、YL0.3～0.8 の ORT3～8 (Oxford Reading Tree Stage3～8、表 3 の 1 段目) で急場をしのいだ経験がある（2003 年度以降は、ほとんどの学生が ORT3 から読み始めており、「難しい」と言われることも少なくなった）。

#### Q5. 成績評価は、どうしているのか？

A5. 初見英文の読解試験<sup>\*11</sup>、これに外部試験 (TOEIC、ACE) と読書記録を加えて、総合的に評価している（別紙シラバス例を参照）。シラバスに英語運用能力の学年別目標を TOEIC 得点で明記し、これと整合するよう、内部試験の難易度を毎年見直している。また、読書記録（読書語数）は、読書の妨げにならないよう工夫している（評価比率を 5～10% に押さえ、読書語数の対数を評価点にする等）。TOEIC を英語運用能力の測定指標には利用するが、TOEIC 受験対策は推奨しない。

#### Q6. 多読授業を始めてみたい（導入を検討してみたい）が？

A6. 参考図書<sup>\*8、12</sup>を読まれた後、近隣の実践校の授業を見学されてはいかがか？

ただし、多読授業における指導は、従来の英語の授業とは異なる資質を求められます。まずは、指導担当候補者（できるだけ複数の教員がよい）が、自らやさしい英文図書（多読用図書）を 100 万語程度読んでみて、自らの変化を冷静に観察してみるのが良いと思う。その上で、最初は少数の学生を対象に多読指導を行い、各校の実態に合った指導体制を構築しながら、対象者を拡大するのが無理ないであろう。

高専では、専門学科の教員、技術・事務職員、同窓生、保護者、地域の方々にも、学習者として参画してもらい、環境整備、雰囲気作りを行うと、より効果的と考える。全国高専が連携して多読授業を実践すれば、近い将来、「英語教育」を、高専の弱点から強みに変えることも、現実味を帯びてくるはず。

また、日本多読学会の HP (<http://www.seg.co.jp/era/>) では、多読学会紀要（Web 版）、および、いくつかの実践報告を読むことができる。

本資料に関する疑問・質問は、西澤（nisizawa@toyota-ct.ac.jp）まで。

\*12 「めざせ！1000 万語英語多読完全ガイドブック」古川他、コスモピア

表3 多読用図書の例

快適な読書の目安は、読書速度：毎分 100 語以上

レベル	ページ例	テキスト例
YL0.3 全 71 語 ORT3  Oxford Reading Tree Stage 3	 Mum and Dad sat on the rug.	Mum and Dad sat on the rug.  (このレベルから始めて、ようやく、ほぼ全員が読書可能に)
YL0.8 全 900 語 PGR0 (200 語) Penguin Readers Easystarts	 Maisie King lives in the Bahamas. She is thirteen years old and likes pop music, reading and swimming. Her mother and father are doctors. They work at the Freeport Animal Hospital. The hospital is next to their home – a blue house by the sea. It is very old, but it is beautiful, and Maisie loves it. Her grandfather loves it, too. He lives with the family.	Maisie King lives in the Bahamas. She is thirteen years old and likes pop music, reading and swimming. Her mother and father are doctors. They work at the Freeport Animal Hospital. The hospital is next to their home – a blue house by the sea. It is very old, but it is beautiful, and Maisie loves it. Her grandfather loves it, too. He lives with the family.  (このレベルからでは苦しい学生多い。 1年目、読書量 10万語で読める)
YL1.4 全 4,200 語 CER1 (400 語) Cambridge English Readers Level 1	 There was a brooch on her blouse in the photo. It was a flower. ‘Is that the brooch?’ asked Logan. Kerr looked at the photo. ‘Oh yes,’ he said. ‘That’s it. I didn’t know it was in that photo.’ ‘How old is the photo?’ asked Logan. ‘About a year, I think,’ replied Kerr. Logan looked at the photo again. Then she looked at Kerr. ‘Is everything OK at home?’ she asked. ‘Is there anything wrong? Is your wife unhappy?’ ‘No,’ said Kerr quickly. ‘No, We’re very happy.’ ‘Is she with friends? Or with family?’ ‘No,’ said Kerr. ‘Nobody knows where she is.’ Logan looked at Kerr and thought for a minute or two. ‘The thing is,’ she said, ‘I can’t do very much. Your wife isn’t a child. She can go away for a few days – I can’t stop’	There was a brooch on her blouse in the photo. It was a flower. ‘Is that the brooch?’ asked Logan. Kerr looked at the photo. ‘Oh, yes,’ he said. ‘That’s it. I didn’t know it was in that photo.’ ‘How old is the photo?’ asked Logan. ‘About a year, I think,’ replied Kerr. Logan looked at the photo again. Then she looked at Kerr. ‘Is everything OK at home?’ she asked. ‘Is there anything wrong? Is your wife unhappy?’ ‘No,’ said Kerr quickly. ‘No, We’re very happy.’ ‘Is she with friends? Or with family?’ ‘No,’ said Kerr. ‘Nobody knows where she is.’ Logan looked at Kerr and thought for a minute or two. ‘The thing is,’ she said, ‘I can’t do very much. Your wife isn’t a child. She can go away for a few days – I can’t stop’  (2年目、読書量 25万語で読める)
YL2.0 全 6,300 語 OBW1 (400 語) Oxford Bookworms Stage 1	 Chapter 1 Two Ships  T he race began in the summer of 1910. On June 1st, in London, a black ship, the <i>Terra Nova</i> , went down the river Thames to the sea. Thousands of people stood by the river to watch it. They were all excited and happy. On the <i>Terra Nova</i> , Captain Robert Falcon Scott smiled quietly. It was a very important day for him. He was a strong man, not very tall, in the blue clothes of a captain. He was forty-one years old, but he had a young face, like a boy. His eyes were dark and quiet. One man on the ship, Titus Oates, smiled at Scott. ‘What an exciting day, Captain!’ he said. ‘Look at those people! I feel like an important man!’ Scott laughed. ‘You are important, Titus,’ he said. ‘And you’re going to be famous, too. Do you see this flag?’ He looked at the big British flag at the back of the ship, and smiled at Oates. ‘That flag is coming with us,’ he said. ‘In the Antarctic, I’m going to carry it under my clothes. We’re going to be the first men at the South Pole, and that flag is going to be first, too!’  *****  Five days later, on June 6th, a man opened the door of his Everything Changes	The race began in the summer of 1910. On June 1st, in London, a black ship, the <i>Terra Nova</i> , went down the river Thames to the sea. Thousands of people stood by the river to watch it. They were all excited and happy. On the <i>Terra Nova</i> , Captain Robert Falcon Scott smiled quietly. It was a very important day for him. He was a strong man, not very tall, in the blue clothes of a captain. He was forty-one years old, but he had a young face, like a boy. His eyes were dark and quiet. One man on the ship, Titus Oates, smiled at Scott. ‘What an exciting day, Captain!’ he said. ‘Look at those people! I feel like an important man!’ Scott laughed. ‘You are important, Titus,’ he said. ‘And you’re going to be famous, too.’  (このレベルで開始では英文和訳から抜け出せず、1時間強では読めない。 3年目、読書量 40万語で読める)
YL2.8 全 11,000 語 MMR3 (1,100 語) Macmillan Readers Elementary	 The girl who spoke was tall and pretty and she had long brown hair. The boy who she was speaking to was blond and handsome. He had light brown eyes and a fine mouth. Joey Potter and Dawson Leery had been friends all their lives. Each was the other’s best friend. But they were both fifteen years old. And life gets difficult for girls and boys at that age. The person who Joey didn’t want to kiss wasn’t looking at the other two. He was looking out over the water of the little creek. Pacey Witter  (EPER D レベル：TOEIC300 であるが、普通の学生には読み通せない。 専攻科修了までに全員が、このレベル以下の本で読書量 100万語達成が目標)	“Dawson, I will not kiss Pacey Witter!” Joey Potter said angrily. “Dawson, I will not kiss Pacey Witter!” Joey Potter said angrily. The girl who spoke was tall and pretty and she had long brown hair. The boy who she was speaking to was blond and handsome. He had light brown eyes and a fine mouth. Joey Potter and Dawson Leery had been friends all their lives. Each was the other’s best friend. But they were both fifteen years old. And life gets difficult for girls and boys at that age. The person who Joey didn’t want to kiss wasn’t looking at the other two. He was looking out over the water of the little creek. Pacey Witter  (EPER D レベル：TOEIC300 であるが、普通の学生には読み通せない。 専攻科修了までに全員が、このレベル以下の本で読書量 100万語達成が目標)
YL5.0 全 48,700 語 Darren Shan #1 “Cirque de freak”	 INTRODUCTION  I’VE ALWAYS been fascinated by spiders. I used to collect them when I was younger. I’d spend hours rooting through the dusty old shed at the bottom of our garden, hunting the cobwebs for lurking eight-legged predators. When I found one, I’d bring it in and let it loose in my bedroom. It used to drive my mum mad! Usually, the spider would slip away after no more than a day or two, never to be seen again, but sometimes they hung around longer. I had one who made a cobweb above my bed and stood sentry for almost a month. Going to sleep, I used to imagine the spider creeping down, crawling into my mouth, sliding down my throat and laying loads of eggs in my belly. The baby spiders would hatch after a while and eat me alive, from the inside out. I loved being scared when I was little. (留学帰りの学生でもすんなり読めないが 読書量 300万語なら楽しんで読める)	I’ve always been fascinated by spiders. I used to collect them when I was younger. I’d spend hours rooting through the dusty old shed at the bottom of our garden, hunting the cobwebs for lurking eight-legged predators. When I found one, I’d bring it in and let it loose in my bedroom. It used to drive my mum mad! Usually, the spider would slip away after no more than a day or two, never to be seen again, but sometimes they hung around longer. I had one who made a cobweb above my bed and stood sentry for almost a month. Going to sleep, I used to imagine the spider creeping down, crawling into my mouth, sliding down my throat and laying loads of eggs in my belly. The baby spiders would hatch after a while and eat me alive, from the inside out. I loved being scared when I was little. (留学帰りの学生でもすんなり読めないが 読書量 300万語なら楽しんで読める)

電子機械工学専攻 E 平成21年度1学年	科 目	電気英語コミュニケーション コード: 93028	1単位	担 当 通 年	西澤一								
			必修										
本校教育目標:	JABEE 学習教育目標: f g		プログラム学習教育目標: D4 D5										
科目概要: 技術のグローバル化に伴い、英語によるコミュニケーション・スキルの習得は、電気・電子技術者にとり不可欠となっている。本講では、主として、やさしい英文を日本語を介さないで大量に読む多読法演習により、英語コミュニケーションの基盤となる、リーディング技能の基礎を身につけ、また、自律的、継続的な学習スタイルを確立することを目指す。所定の課外学習を要する。													
教科書: 「めざせ 100 万語! 読書記録手帳」SSS 英語学習法研究会、Macmillan Readers Elementary (MMR3)他、英文多読用図書 その他:													
評価方法: 中間試験(10%) 定期試験(40%) / 課題(50%)													
授業内容					授業時間								
(1) 英語コミュニケーション・スキルを身につけるための学習法の解説					2								
· 多読の効果、多読とリスニング力との関係、多読の進め方													
· リーディング速度と、適切な英文テキストの見つけ方													
(2) リーディング教材を用いた読解演習:					24								
使用語彙水準の異なるリーディング教材の中から各受講者が選択した教材を用い、 日本語を介さずに理解することを目指した読解演習(毎分 100 分語以上を目安に、各自の実力に合った教材を選択)													
(3) 学習者毎に、実力に合ったリーディング教材を見つけるためのカウンセリング (多読演習中に、担当教員が巡回し、個別に実施)					4								
達成度目標													
(ア) 日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書することができる。(g)													
(イ) 基本語 800 ~ 1000 語水準(YL2.8)の英文を、連続して 1 時間以上読み続けることができる。(f)													
(ウ) 基本語 800 ~ 1000 語水準(YL2.8)の英文を、毎分 100 語以上で読み、概要を把握することができる。(f)													
(エ) 課外学習も含めて、1年間で延べ 20 万語以上の易しい英文を読んでいる。(g)													
(オ) TOEIC450 点相当以上の英語コミュニケーション能力を有する。(f)													
特記事項: TOEIC440 点程度の英語コミュニケーション能力を持つことを想定して授業を行う。課題評価は、読書記録(9%、H21 年 3 月 ~ 22 年 2 月の累積)、および、外部試験(41%、H21 年度以降に受験した TOEIC IPC または公開受験結果で、TOEIC450 点未満は 0 点と評価)により行う。必修													